

<健康開発科学領域について>

指導教員：姜 英

健康開発科学は、労働者の健康保持・増進に関するシステム及びプログラムの開発、実践、評価を行う領域である。「特論」では、健康開発科学の全般にわたり、基礎知識を得ると同時に実践応用するための経験を蓄積することで、健康開発科学の基本を学び、発展応用する能力の習得を目指す。「演習」では、健康開発科学全般にわたる幅広い基礎知識を実践的に習得するとともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につけ、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力を獲得する。「実習」では、自分の研究テーマの概要が決まったのち、指導教員のもとで具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。

「論文指導」では、自分の研究テーマについて、指導教員のもとで議論し、問題点を明らかにする過程を繰り返し行うことで研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、論文投稿のプロセス・発表の倫理などを系統的かつ実践的に習得する。この領域の特色は、産業保健分野でも重要な労働者の健康保持・増進についての実践と評価を科学的に行うことである。この科目を通して、現在顕在化している労働者の高齢化、身体活動量の低下や過食、喫煙にともなう生活習慣病の増加などの問題を、職場の状況に応じて解決することができる能力を付与する。

<産業衛生学専攻博士前期課程への入学を希望される方へ>

1. 研究テーマについて

健康開発科学領域では、以下の研究テーマを想定しています。

健康開発科学研究室（姜 英講師）が中心となって指導する研究

- 大学院生自身の所属する企業・団体等の職員・学生を対象とした産業医学、または、健康の保持・増進に関する介入研究
(例：有酸素運動、レジスタンストレーニング、喫煙対策等)
- 大学院生自身の所属する企業・団体等の職員・学生に関するデータを対象とした産業医学または健康の保持・増進に関する観察研究
- 大学院生自身が所属する企業・団体等のフィールドを用いた有害な粉じん・ガスのリアルタイムモニタリングによる作業環境管理の有効性評価に関する研究

2. 受け入れ要件の目安

一般入学者および週1日程度の対面指導が可能な社会人入学者については、受け入れ要件はありません。

一方、主にリモートでの指導を前提とした社会人入学を希望される場合、2年間の修学期間で必要な成果を確実に上げるために、以下を受け入れの目安としています。

以下の項目のうち、3つ以上の項目を満たすこと

- トータル・ヘルスプロモーション・プラン（THP）、健康の保持増進、あるいは、職場における喫煙対策について基本的な知識がある。
- 想定される研究を行うことができるフィールドを確保できている。
- エクセル、パワーポイントの操作に習熟していること。
- 想定される介入研究の手法と分析手法を理解している。
- 何らかの学術論文を執筆した経験がある。

問い合わせ先：健康開発科学 代表メールアドレス
j-kaihat@mbox.med.uoeh-u.ac.jp